
デュエルデュエルクトゥルー

創者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デュエルデュエルクトウル

【Nコード】

N1694Q

【作者名】

創者

【あらすじ】

この物語を見ている者がいるときには私はどうなっているだろうか。

年をとるだけか、屍か、それとも・・・

だが、コレを書かない訳にはいくまい。あいつらとの約束だ。

しかし、もし、読んでいる者が、あの時の私と同じような好奇心を抱いているのならば・・・

登場人物紹介（前書き）

物語に出てくる登場人物の紹介。
物語が進むたびに更新。

登場人物紹介

- ・ 古樹 木檜 19歳 男
- ・ 使用デッキ…【純デュアル】
- ・ 設定

この物語の主な視点を勤める。
シティ在住の大学生。

成績の方は普通くらいで、性格は物静かで、友人も多くはない。
但し、一回息の合った人物にはとことん付き合う。

使用するデッキは【純デュアル】。決闘時には性格が変わる。
ある時、誰かに導かれるように出かけた彼は、その中で一人の少女
と出会う事となる。

- ・ 大十字 四葉 19歳 男
- ・ 使用デッキ…【魔法都市エンディミオン】
- ・ 設定

古樹 木檜の友人の一人。

成績の方は良く、観察力は人一倍離れている。

基本的には自分中心に見えるが、信頼した人物には私事より優先
的に協力する。

使用するデッキは【魔法都市エンディミオン】 実は彼は・・・

プロローグ（前書き）

大分投稿できなかったけどなんだろう。

プロローグ

アーカムシティ。

ネオドミノシティの隣に存在するこの街は、ネオドミノシティと同じく決闘者の街として名が高かった。

この街にあるミスカトニクアカデミアも、デュエリスト育成校の一つであった。

そのミスカトニクアカデミアの大学部の一つの教室に、二人の学生がいた。

二人は何かを話している様である。

「今日の決闘模試とうだった、四葉^{しば}」

「楽勝だったな。まあ、俺に勝った奴はお前^{こなら}だけだけだしな、木^こ櫛^{なら}？」

「アレは偶然だよ。アーカナイトマジシャンの召喚許してたら危なかったし」

「偶然でも勝ちも勝ちだ、誇っても良い」

（ま、本人がそういうならかまわないけどね）

二人はそんなことを話しながら帰る準備を始める。

時刻は七時、本来二人にはまだまだな時間だが、今夜にはどうしてもみたいものがあった。

プロデュエリストの決闘番組である（提供…海馬コーポレーション）特に今夜は今では滅んだ流派の使い手が登場しているという。

見逃す訳にはいかなかった。

木櫛はそんなことを考えながら準備をしているとふと気がついた。

四葉が居なくなっている。

「・・・四葉？」

そう呟いた言葉は教室の空気と混じりあい、溶けていく。

「まったく、自分勝手なんだから」

そういうと、荷物を持って教室を出た。

自分をおいてまでTVをみたいのだろうか。

それにしてもコレまでこんな事は一度も無かったのだが（むしろ四葉の方がずっとくっついていた）一体何なんだろう。

「まあ、人間こんな事もあるよね」

そんな感じで気楽に考えながら校門を出て、学校の近くにある鏡樹山^{きやうじき}を眺めながら歩いていると、ふと何かの声が聞こえた気がした。いぶかしげに思い、立ち止まって耳を澄ましてみると確かに聞こえる。

ふんぐるい　むぐるなふ　くとうるう　るるいえ　うがふなぐるふ
たぐん・・・

「・・・誰かいるの？」

不用意に声を出してしまい慌てて口を塞ぐ。

その時だった。

目の前の茂みが大きく動いたのは。

「・・・っ！」

慌てて後ろに下がると同時に、先ほどまで自分がいた空間を何かが薙いだ。

月明かりに照らされて映し出されていたのは、太く大きい何かの腕。一瞬だったが、それが人の物で無いことは容易に分かった。

鱗。太い腕に、ビッシリとそれは生えていた。

しかし、陸上の生物で腕に鱗が生えた生物など数える程もない。

増しては人間ほど大きな生物など、どこにも。

どうやら腕の持ち主は山の奥へと上っていったらしい。どうやら攻撃自体はついでの様だった。

まるで、後を追いかけると言わんばかりに。

普通の人間であつたらこの時点で逃げ出しているであろう。

しかし、木柵の心の中は恐怖よりも好奇心で溢れてしまった。

好奇心は時々恐怖をも凌駕する。もっともソレは木柵だけであろう

が。

木樨は荷物を置いて山へと登り始める。その答えを求めて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1694q/>

デュエルデュエルクトゥルー

2011年3月30日02時32分発行